「ROOKIES」から読み取る組織論 A systematic study on 「ROOKIES」

1K06B048

指導教員 主査 寒川恒夫先生

大島佐利

副査 中竹竜二先生

この章では研究動機、目的や方法について述べる。この論文ではスポーツ漫画「ROOKIES」から読み取る組織論について論じていく。

「ROOKIES」は漫画の世界ではあるが活動二年で甲子園出場を達成している。この成績を収める組織の考え方、組織作りが現実の世界の組織に応用できることがないか考えることを目的としている。

方法は漫画「ROOKIES」の組織論と実際の組織論とを比較する。第一章では、漫画「ROOKIES」を様々な方向から分析する。ストーリーや登場人物だけでなく、作者のこだわり、連載されていた「週刊少年ジャンプ」のテーマなどについても考える。

第二章では現在様々な人間が提唱している組織論を参考にし、強い組織特にスポーツチームについて研究する。

第三章では第二章で掲げた組織論と漫画の中のシーンを照らし合わせることで、その組織論が有効か検証した。

【第一章】

この章では「ROOKIES」について分析をする。「ROOKIES」が連載されていた「週刊少年ジャンプ」や作者、ストーリーについてまとめ、「ROOKIES」とはどのような漫画なのか、世間に与えた影響力など、様々な観点から考えていく。

「週刊少年ジャンプ」は集英社から毎週月曜日に発行されている少年向けの漫画雑誌である。雑誌のキーワードは「友情」「努力」「勝利」で

ある。作者である森田まさのりは幼いころから阪神タイガースファンである。漫画の登場人物が阪神タイガースの選手の名前から取るなどこだわりを感じる事が出来る。

ストーリー、登場人物に触れてから漫画のテーマ、「週刊少年ジャンプ」のテーマに基づき考えていく。

【第二章】

この章では組織、特にスポーツチームについて考え、強いチームには何が必要なのかについてまとめる。その中でモチベーションの考え方に触れ、勝つために必要な要素、勝利するための考え方について考えたい。

スポーツチームとは、目標達成のために個人が参加し協力して活動していく集団である。強いチームとは個々の能力がある程度の基準まであり、チームの強み、個人の能力をそのチームにあった方法で出せるチームである。

【第三章】

これらのことを考えた上で、第三章では漫画の中の事例と照らし合わせ、「ROOKIES」の組織論が有効であるか考察する。

ニコガク野球部は、初めはスポーツチームとして成り立たないグループであったが、目標に向かって努力することに喜びを感じるようになり、スポーツチームとして成り立った。川藤幸一、御子柴を中心に理論に基づいたチーム作りがされている。

チーム全体を通して、高いモチベーションが

保たれていて、活動内容に反映されている。試合は選手一人ひとりがモチベーションを下げることもあるが、周りの人々の影響で、チームの持っている力以上の成果を得ている。このような成果を出せたのは、川藤幸一が存在がとても大きいことを表している。

【結論】

ニコガク野球部は第二章で記した強いチームとしての素質を十分に持っているチームである。ニコガク野球部は強いチームになる素質を持ったうえで、選手たちがモチベーション高く、最高のパフォーマンスを出している。

今回、「ROOKIES」から取り上げた事例は、現実のスポーツの現場でも見られることであり、「ROOKIES」から読み取る組織論は有効であるといえる。